

農楽里

***norari***

やまがたの農山漁村づくり情報マガジン



2026年春号

**Vol.59**  
**Free**



テーマ

人がつなぐ地域と未来

# INDEX

## テーマ

## 人がつなぐ地域と未来

**里山ソムリエ** 人が出会い、つながる場所「里山」その魅力を伝える案内人

南原地区 米沢市 4

**雪国の日常を未来へつなぐ**

一般社団法人 雪と暮らし舎 真室川町 6

**住民が動くと地域が変わる** 加茂ビジョンが描く未来図

加茂地区 鶴岡市 8

**かほくさくらんぼ塾** まずは体験、そして実践・河北で農家を目指す

河北町 10

**地産地消でとことん勝負！！**

キッチンカー tontocoton 12

**水土里ウォーク**

水面に咲く歴史 田沢沼 大石田町 14

**やまがたの食**

最上传承野菜 最上赤にんにく 最上地域 16

**大雨被害の熊本県に農業土木職員を派遣**

18

**読者プレゼント**

19



表紙

「わたしのすきな春の色」

(撮影場所：庄内町)

第30回やまがた農村フォトコンテスト

学生の部優秀賞 石崎 叶芽 さん

農楽里

**norari**

元気な農山漁村をつくっていききたい。農山漁村の自然や景観の保全活動に関わりたい。

農楽里(のらり)は、農山漁村づくりに関心のある方、参加してみたい方、すでに参加している方を対象に、県内各地の地域情報を発信し、新たなコミュニケーションの場づくりを提供する手づくりの情報誌です。

norariは、山形県ホームページから  
もご覧いただけます。

(右記コードからアクセスできます。)



## 農家のお母さんから学ぶお正月文化、郷土料理

国際交流として学生や外国人に農村文化を紹介してほしいという依頼があり開催したイベント。参加者が持ち寄った材料も使って地域に伝わる料理を調理して味わうなど、農村地域の魅力を感じるきっかけとなっている。



## 里山の散策と自家製の窯で行うピザ作り

自然の魅力を里山で子どもたちに体験させてほしいという依頼があり、開催したイベント。里山を散策しながらピザと交換するためのどんぐりや火を起こすための小枝を集め、自家製の窯でピザ作りを行うことで子ども達が自然を楽しんだ。



人が出会い、つながる場所 「里山」

その魅力を伝える案内人

# 「里山ソムリエ」



## 黒田 三佳 さん

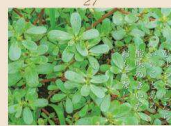
- 里山ソムリエ（商標登録）
- 人材育成アカデミー  
ローズレーン代表
- 山形大学工学部  
非常勤講師など…

## 森のようちえん



## かでの料理

暮らしの中にある「食べられる野草」の特徴やおススメレシピ等を掲載したエッセイ集を発行している。



「森とかでの」里山ソムリエ 黒田三佳著 発行所/山形会議パブリッシング

**里山の温かさに触れる**  
吾妻連峰のふもとに広がる米沢市南原地区は、豊かな自然と暮らしが寄り添う場所である。ここで人と地域をつなげる活動を行っているのが米沢市の農村環境保全指導員、黒田三佳さんだ。

東京出身の黒田さんは、旅行で米沢市を訪れた際に道に迷い、たまたま農作業をしていた方に声をかけたところ、親切に対応してもらった上に、採れたての野菜を分けてもらったそう。都会ではなかなか経験できない人の温かさや農家さんからももらった野菜の美味しさ、さらには、青空と新緑の山々が広がる農村風景に心を動かされ、米沢市への移住を決めた。

**里山の魅力を伝える案内人**  
黒田さんが米沢で暮らしてみると、住民にとっでは馴染み深い、まだまだ知られていない里山の魅力がたくさんあることが分かった。これを発信していくため、相談内容に応じて里山の魅力やそこに集まる農家や職人など地域の人々を紹介し、人と地域をつなげる「里山ソムリエ」としての活動を行っている。

黒田さんが特に力を入れているのが、里山を活用した子ども向けの自然体験イベントである。里山の魅力を次世代に伝える「森のようちえん」や、江戸時代以上に杉鷹山が飢饉に備えてかてになるものとして広めた食べられる野草「かでの」の文化の継承だ。農村環境保全指導員就任後はこれら活動を活かし、地域の支援を行っている。

## 「農村環境保全指導員」とは？

ふるさとの豊かな自然と、美しい景観・文化資源を守り育てるため、県は農村地域の活性化に理解と熱意のある方を「農村環境保全指導員」として委嘱し、地域の活動の指導・助言をお願いしている。

現在、県内では44名の方が活動しており、地域住民との共同活動のリーダーとなり、地域活動の推進を担っている。

## 今後の展望

これまでの活動は、地域の皆さんに支えられながら続けてこられました。引き続き、里山の魅力をイベントやメディアなどを通じて発信していき、少しでも里山に興味を持つ人を増やしていきたいと思っています。



Instagram



YouTube



黒田さん HP

# 雪国の日常を未来へつなぐ 一般社団法人 雪と暮らし舎



理事 梶村勢至さん



代表理事 佐藤萌以さん

## ※設立の思いと活動の原点

豪雪地帯の真室川町では、雪とともにある暮らしが日常として根付いている。一般社団法人「雪と暮らし舎」は、そんな日常に寄り添いながら、地域の暮らしや文化、人の流れを未来へつなぐ活動している団体である。代表理事の佐藤萌以さんと理事の梶村勢至さんは、ともに真室川町の地域おこし協力隊として活動していた。協力隊では、移住・定住の支援や真室川町の伝承野菜の販路拡大などに取り組んできたが、地域資源を生かしたビジネスの創出や地域内の経済循環を高める活動をしたという思いから、法人を設立した。

「雪と暮らし舎」の名前の由来について梶村さんは、「雪は生活するうえで大変な面もあるが、雪のある暮らしをポジティブにとらえてほしいという思いを込めている」と話す。

## ※雪と暮らし舎の取組み

雪と暮らし舎は、真室川町の委託による移住支援をはじめ、町の伝承野菜などの地域食材を用いた菓子製造・販売、農家や民間事業者・公共団体などの依頼による各種デザインを行っている。また、地域おこし協力隊の経験を活かし、協力隊の支援も町から委託されている。こうした活動で築いた地域とのつながりをきっかけに、令和6年度からは農村地域と都市部企業のマッチング支援事業に地域アドバイザーとして関わるなど、関係人口の創出にも取り組んでいる。

こうした日々の取組みを通して、雪と暮らし舎が目指すのは、「雪国だからこそこしらえることができる、豊かな暮らし」を提案していくことだと話す。

## オーダーメイド型 移住体験ツアー

移住支援の一つに、オーダーメイド型移住体験ツアーがある。参加者一人ひとりの関心に合わせ、仕事や住まい、子育てなど、暮らしを具体的に思い描ける内容を用意している。参加者は関東圏を中心に、Uターン希望者や、両親のいずれかが真室川町出身という方など様々である。

このツアーで大切に行っているのは、観光ではなく、移住先として真室川町を現実に考えてもらうこと。暮らしの現場に身を置き、地域の人と触れ合いながら、これらの暮らしを考える機会となっている。



農作業を体験中の参加者



地元の方から作り方を教わったおはぎ

## 伝承野菜の未来を支える 「おはぎ屋さん」

佐藤さんが中心となって運営する「雪のおはぎ\*風花」は、今年4月に4周年を迎える。真室川町の伝承野菜をはじめ、最上地域の食材を使用し、手間ひまかけた手づくりにこだわっている。

おはぎの販売を通して、伝承野菜を栽培している農家の収入につなげ、栽培量や栽培する農家の数を増やすことを目指している。こうした活動により、「農家が安定的に伝承野菜を栽培できる環境を作り、貴重な種を次世代へつなぐことも、雪と暮らし舎の大きな目標です。」と二人は話す。

## 雪のおはぎ\*風花

営業日時: 金曜 11時~17時30分  
土曜 10時~17時

住所: 〒999-5312

真室川町大字新町 220-8

問い合わせ: 0233-29-6215

※上記日時であってもイベント出店等で定休日の場合もあります。

最新情報や  
営業日時は  
Instagramで  
ご確認ください!



※お問い合わせ※

一般社団法人 雪と暮らし舎

〒999-5312 真室川町大字新町 220-8

TEL : 0233-29-6215

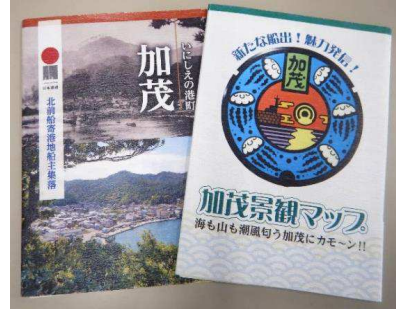
facebook : <https://www.facebook.com/yuki10kurasu>

## コロナ禍の荒波を乗り越えて

加茂ビジョン完成から半年後、世間はコロナ禍の始まりに直面していた。各チームが動き出し、これからという時であったが、集まったの活動は制限され、厳しい状況に立たされた。

そんな中でも、チーム毎のグループチャットで繋がりを継続しながら、全体の活動報告会を年2回開催し、コロナ禍が終わった後の、明るい加茂の未来を想像しながら、気持ちのキープに努めた。

そのコロナ禍の中、作成に取り組んだものが、自然チームの景観マップ、歴史チームの歴史マップである。多彩で美しい海・山・町なかの景観や日本遺産「北前船寄港地・船主集落」に追加認定された加茂の歴史、おすすめの散策ルートを紹介している。



## 地域の若者・子どもが活躍する地域づくり

教育チームは、「若者・子どものパワーが加茂を変える」として、3つの事業計画に取り組んでいる。

- ① 青壮年世代の一人ひとりに役割を与え、活躍する場を
- ② 若者世代の交流イベントを実施する
- ③ 特産品大判焼の開発と子どもの遊び場を作る

令和7年度は、加茂水産高校とコラボした大判焼を開発した。高校の生徒が捕ったマダコやイカをふんだんに使ったお好み焼きのような大判焼である。

11月9日に開催された加茂地区市民作品展示会で、通常の大判焼と一緒に販売を行い、どちらも注文に対して、調理が間に合わないほど大人気であった。



大判焼づくり



加茂水産高校とのコラボ

## 加茂のこれから

来て楽しい！住んでいて楽しい加茂をみんなでつくり、県内外・国内外の沢山の人から加茂に来てもらうために、これまでの活動で培った経験を活かし、現実的なことからより大きな目標へと、舵を切り、更に進んでいく。

お問い合わせ 鶴岡市加茂地区自治振興会  
TEL:0235-33-3023

歴史マップ・景観マップが欲しい方は  
こちらからダウンロード可能⇒



# 住民が動くと地域が変わる —加茂ビジョンが描く未来図—



鶴岡市加茂地区

## 地域の未来を 自分たちで考える

鶴岡市加茂地区は、令和元年9月に鶴岡市ではじめて地域ビジョン「加茂ビジョン」を完成させた地区である。地域ビジョンとは、各住民自治組織が、将来の目指す姿やその実現に向けた取り組みをまとめたものである。

加茂地区では、ビジョンに掲げた「地域の絆を強化し、安全・安心で心豊かに暮らせる生活を目指す」「豊かな自然や歴史、文化など豊富な地域資源の情報共有により誘客を促進し、人口減少に歯止めをかける」という目標に向かい、5つのプロジェクトチームを立ち上げ、地域住民主体の地域づくりを行っている。

## 加茂地区の変化

加茂地区の一番の変化は、住民が加茂に興味を持つようになったことである。それまでは、小学校の閉校や若者の流出、空き家の増加など、マイナスな面ばかりが目に入り、加茂の魅力である豊かな自然や歴史・文化など豊富な地域資源に気づけていなかった。

加茂ビジョン完成後は、景観マップや歴史マップの作成、まち歩きイベントの開催などで観光客が増加した。加茂ビジョンに携わるメンバーだけでなく、住民全体が加茂の魅力を再発見し、加茂をより良い地域にしたいという思いが強くなっている。

## 5つのプロジェクトチーム

- 自然チーム：加茂の自然・風景の魅力を発信し、賑わいを創出！
- 環境チーム：防災、空き家対策など、安心へとつなげるまちづくりを推進！
- 教育チーム：地域内での交流の場や若者主体の事業を検討！
- 歴史チーム：日本遺産「北前船寄港地」を活かした歴史・文化の継承！
- 産業チーム：特産品開発や、旧小学校跡地を活用し、誘客を促進！

# かほくさくらんぼ塾

—まずは体験、そして実践・河北で農家を目指す—



講師が塾生を指導する様子

## 豊かな自然に囲まれた町で

河北町は、月山や朝日岳、蔵王といった名峰を遠望できるほか、母なる川・最上川と清流・寒河江川に囲まれた豊かな自然環境を有する、風光明媚な町である。その河北町で新規就農者を支援するために設けられたのが「かほくさくらんぼ塾」(正式名称・河北町就農研修生受入協議会)である。

## 手厚い支援で新規就農へ

かほくさくらんぼ塾は、東京で開催される「新・農業人フェア」などを通じて塾生を募集しており、フェアで関心を持った方には、塾に所属する農家が直接説明を行っている。塾生の関心や習熟度に応じた柔軟な研修メニューを用意しており、まずは河北町の暮らしや農作業の体験を1日〜1か月程度の「短期体験」から始めることができる。

短期体験を経て農業への意欲が固まれば、より実践的なスキルを身につけるための「長期実務研修」へと進むことができ、ここではベテラン農家による実地指導を受けながら、営農のノウハウや経営感覚を学ぶ。研修で習得が可能な作物は、塾名にもある山形を代表するさくらんぼのほか、りんごや水稲、そして「かほくイタリア野菜」など多岐にわたる。さらに、就農後のフォローアップ体制も充実しており、新規就農者が地域で安定して暮らし、農業を続けられるようバックアップが受けられる。自然に恵まれ、人と人のつながりを大切にしている河北町で、本気で農家を目指す方に寄り添うのがかほくさくらんぼ塾である。

## 新天地でOからのスタート

さくらんぼ塾塾生…菊地佑介さん

千葉県から移住し、生稲さんから指導を受けて就農したのが菊地さんだ。飲食関係の仕事に携わる中で、食材の生産に興味を持ち始めたのが就農のきっかけとなった。菊地さんが挙げるさくらんぼ塾の特徴は、農業技術の習得だけでなく人脈づくりの支援にある。環境が大きく変わる中でも、地域に受け入れてもらえる体制が整っている。菊地さんは独立1年目、さくらんぼの主力品種である佐藤錦や紅秀峰のほか、やまがた紅王やサワーチェリーの栽培にも取り組んでいる。

## 農業を始めて

「何のために農業をするのか、何のためにこの仕事をするのか、その「目的」が大切です。今自分が何をやっているか、そこからどう広げていくか考えることが重要かなと思っています。まずはぜひ一度、河北町に足を運んでみてください。」

## 河北町で見つけた「豊かさ」

さくらんぼ塾講師…生稲洋平さん

かほくさくらんぼ塾で講師を務める株式会社クタモノラクエンの生稲さんは、自身も東京から河北町に移住した経験を持つ。料理人として東京で働いていた時、縁があつて訪れた河北町の食材に感銘を受け、農業の道を選んだ。このときの移住の経験から研修中には農業の技術だけでなく、経営に関することや地域社会とのつながりなど、河北町での生活に必要な知識も指導している。

## 生稲さんの想い

「研修に来てくださる方には、農業の為に何かを諦めてほしいありません。農業を通じて生活や心が豊かになってほしいと考えています。自分で選んだ道で豊かさを実感してほしい、お金だけではなく、気持ちが満たされることが何より大切です。」



クタモノラクエン取締役  
生稲洋平さん



クタモノラクエン HP



菊地佑介さんと妻の理宇さん



菊地さん Instagram

受付窓口：

〒999-3511 山形県西村山郡河北町谷地戊 8 1 (河北町農林振興課)

Tel:0237-73-2112 Fax:0237-72-7333

Mail:norin@town.yamagata-kahoku.lg.jp

かほくさくらんぼ塾 Facebook:

<https://www.facebook.com/kahokuagri/>

/kahokuagri/



「かほくイタリア野菜」とは？

「新鮮なイタリア野菜を使いたいのに品物が無く買えない。」そんなイタリアンシェフの言葉から始まったかほくイタリア野菜研究会。イタリア野菜の王様とも呼ばれる、「トレヴィーゾ・タルティーボ」をはじめ、様々な野菜を全国に届けている。



山形の棚田米と白鷹町産の米沢三元豚

ポイント  
飯豊町産の  
備長炭を使用！



炭火焼き  
豚丼

ご飯がすすむ！

秘伝のタレが決め手！

BIGサイズ！



無添加  
フランクフルト

パリッとジューシー！

ボリュームたっぷり！

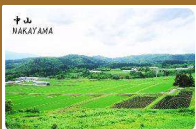
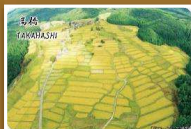


手づくり  
肉巻きおにぎり



### 棚田米って？

山の斜面や谷間の傾斜地に階段状に作られた「棚田」で栽培されたお米のこと。山形県には「やまがたの棚田 20 選」という取組みがあり、高橋、田麦野、中山、深山の棚田も認定されている。



- 松田さんにインタビュー**
- Q 北海道から山形へ移住し、山形でキッチンカーを始めたのはなぜですか。
- A 小さい頃から山形の食材に触れる機会があり、そのおいしさや北海道にはない伝統野菜の歴史等に惹かれたからです。
- Q 棚田米の魅力は、どのようなところですか。
- A 種類によって食感や味が違い、それぞれの特徴があるところが魅力です。令和7年度は、高橋（尾花沢市）、田麦野（天童市）、中山・深山（白鷹町）の棚田米を使用しました。
- Q キッチンカーで販売する魅力や利点を教えてください。
- A 提供する場所に合わせて、その土地の棚田米を使うことにより、地元食材をアピールすることができるからです。
- また、場所に縛られず出店ができるのは大きなメリットで、県外にも山形県の食材を広めることができます。



松田詩央さん

## ドントコトン キッチンカー tontocoton

地産地消で

とことん勝負!!



**キッチンカー tontocoton**

置賜地域を拠点として活動しているキッチンカー tontocoton では、豚丼をはじめ、米沢三元豚を使用したメニューを提供している。代表の松田詩央さんは北海道出身。もともと好きだった料理の世界を仕事にしようとして、キッチンカーの営業を始めた。北海道帯広の名物であり、お店の看板メニューである豚丼のレシピは、料理人をしている友人の父から受け継いだものである。キッチンカーの名前である「tontocoton」には、豚（ト）+ とことん頑張るという思いが込められている。

**地産地消へのこだわり**

松田さんのこだわりとして、豚丼にはすべて山形県産の食材が使われており、白鷹町で育てられた米沢三元豚、山形県内の棚田で生産された棚田米を使用。また、出店する場所に合わせて、その地域の棚田米を使用するといった工夫もしている。

松田さんには、地元で生産された食材のおいしさを知ってもらうことで、国産のものを選ぶ消費者が増えてほしいという強い思いがある。

地産地消だけでなく、メニューには添加物を使っていないため、みなさんに安心して食べてほしいというこだわりがある。



# たざわぬま 田沢沼見どころマップ

**1 親水公園**  
 令和6年には「むらやま地域森の感謝祭」を開催した。森づくり活動としてアヲダモ苗木の植栽やオオヤマザクラの記念植樹を行い、森林から生み出される恩恵に感謝するとともに、これからの田沢沼の森林の発展について考えるきっかけとなった。



**2 中島連絡路**  
 平成15年度に水環境整備事業で造られた。ここから中島に渡ることができる。



**3 中島・三吉神社**  
 豪快な事を好む、力の神様が祀られている。御神徳（御利益）  
 ・勝利成功・身体堅固・事業繁栄  
 ・合格必勝・家内安全・大願成就  
 連絡路がなかった頃は、舟に乗ってお参りに行っていた。



**4 斎藤茂吉歌碑**  
 生誕百年記念として昭和57年に建立された。  
 「高<sup>たかはら</sup>原の沼<sup>の</sup>におりたつ<sup>こうとり</sup> 鶴<sup>しらすも</sup> ひとつ山<sup>の</sup>のかげより白<sup>の</sup>雲<sup>の</sup>わきて」

蕎麦処 若佐

田沢公民館

大石田南小学校

ふるさとセンター

四季折々の景色を楽しめる！

大石田駅から車で10分  
 所在地：山形県大石田町田沢 2321

**5 アクティビティ**  
 「トムソーヤの冒険 in 田沢沼」が夏期に開催されており、町内の小学生がカヌーに乗って自然とのふれあいを楽しんでいる。



み  
水  
ど  
土  
り  
里  
ウォーク

## 水面に咲く歴史 たざわぬま 田沢沼

### 横山地域保全会

活動年度：平成19年から現在  
 主な活動

①施設周辺の草刈：年2回(6・8月)



②施設周辺のゴミ拾い：年1回(4月)



### 多面的機能支払制度とは？

農業・農村の有する多面的機能（防災・景観保全、生物保全等）の維持・発揮を図るための地域の共同活動を、行政（国・県・市町村）が支援する制度。

人の手で生まれ、守られてきた田沢沼  
 田沢沼は、新庄藩の初代藩主戸沢政盛の命を受け、江戸時代前期に大石田に築かれた農業用ため池である。配水の便がよく、粘土質で水が漏れにくい地形であったことから、田沢が選ばれたと言われている。昭和49年度から51年度に再整備が行われ、現在の姿となった。最上川から揚水しており、貯水量は36万m<sup>3</sup>、深さは7〜8mである。沼には多くの水生植物や昆虫などが生息しており、自然観察の場としても親しまれている。また、春には50本もの桜が咲き誇り、水辺の景観とともに多くの来訪者を魅了する。沼の中央には「中島」と呼ばれる島があり、三吉神社が祀られている。この島は、波の勢いを和らげ土手を守る役割を担っている。平成15年までは舟で渡っていたが、現在は中島連絡路が整備され、散策しながら歴史と自然を感じることができる。  
 この豊かな自然環境を将来に引き継ぐため、横山地域保全会が主体となつて、環境保全活動を進めている。この保全会は、多面的機能支払制度を活用する活動組織として、周辺地域住民で構成されており、植栽や清掃などの取り組みを通じて、田沢沼の美しい景観を守り続けている。

# 家庭でも手軽に作れる最上赤にんにくを使ったレシピ！ スペイン料理アヒージョ

## 材料

最上赤にんにく、オリーブオイル、鷹の爪、お好みの具材（えび、マッシュルーム、ブロッコリー、トマトなど）、塩

## 手順

1. スキレットにオリーブオイル、スライスした最上赤にんにく、鷹の爪を入れ、弱火にかけます。
2. 最上赤にんにくに色が付き始めたらエビを加え、中火で煮ます。
3. エビの色が赤くなってきたら他の材料を加え、中火で3分ほど煮込み、塩で味を調えたら完成！
4. お好みでパセリをまぶしたり、バケットにオリーブオイルを染み込ませたりしながら、食べてみてください！



## 生産者 指村僚汰さん

水稲をしない時期に何か作付けしようと思ったのがきっかけで、栽培を始めました。熱を加えると甘みが強くなるのが特徴で、リピーターになる方もいます。米の出荷量などを踏まえながら、今後も最上赤にんにくの栽培を維持したいと思っています。

現在はECサイトやふるさと納税、山形市内でも販売しています。



「最上伝承野菜に関するお問い合わせ」 山形県最上総合支庁農業振興課 TEL : 0233-29-1315  
FAX : 0233-22-0662



## スタミナ食材！最上赤にんにく！

最上伝承野菜の一つである最上赤にんにく。その特徴は何といっても名前の由来となっている赤紫色の外皮である。外皮が赤くなる理由は、ポリフェノール的一种であるアントシアニンが表面に蓄積されるためであり、内部は他のにんにくと同じく白い。一般的なにんにくと比べ、芽が出にくく貯蔵性に優れ、生で食べると辛みが強いが、熱を加えるとほくほくとした食感になり、甘みがある。

平成18年度に初めて最上伝承野菜として23品目が認定されており、最上赤にんにくはそのうちの1つ。現在、最上地域で約15名の方が栽培しており、生産者の一人である指村僚汰さんは、「むかご(にんにくの茎)でできる子株」を種用として2〜3年育て、その後出荷用として栽培することで、種をつないでいける。

## 最上伝承野菜とは？

最上地域特有で概ね昭和20年以前から存在していた野菜や豆類などのうち、現在も最上地域で栽培され、自家採取しているもの。現在は33品目が認定されており、最上赤にんにくのほか、畑なすやみさずべ芋などがある。



ロゴマーク





農地等の冠水



農地法面の崩落



水路の土砂堆積

## ～県職員の業務レポート～

# 大雨被害の熊本県に農業土木職員を派遣

熊本県では、令和7年8月に記録的な大雨により甚大な被害が発生しました。被害の発生を受け、農地・農業用施設等を早急に復旧するため、熊本県では全国知事会に農業土木職員の派遣を要請し、山形県では全国知事会及び熊本県からの要請に応じて、地方自治法に基づき、県の農業土木職員を令和8年1月から3月まで、1か月交代で1名ずつ計3名を熊本県へ派遣しました。

本県から派遣した農業土木職員は、被災地の一日も早い復旧・復興を支援するため、他自治体からの派遣職員とともに、災害復旧事業の補助率を決めるための市町村、農政局ヒアリングや災害復旧事業進行管理のとりまとめなどの災害対応業務にあたりました。

### 熊本県の大雨災害

令和7年8月10日から11日にかけての記録的な大雨により、県内各地で農地や農道の法面崩壊、水路の土砂堆積等が発生。

農地・農業用施設等の被害は31市町村と広範囲に及び、12,000箇所余りで被害額600億円超と、平成28年熊本地震、令和2年7月豪雨に匹敵する規模。

## [派遣職員より] 災害派遣業務に従事して (川村技師、令和8年1月派遣)

災害派遣業務のため、私は1か月間熊本県庁に勤務しました。派遣先では、約2,900件の災害査定を行う大規模な災害復旧事業の現場で、市町村との調整業務を担当させていただきました。現場で感じたことは、災害に迅速に対応するためには、災害復旧事業の流れを理解する職員が県、市町村共に一定数必要であるということです。

今後は、この災害派遣での経験を、災害復旧事業の研修や普段の会話を通じて共有し、今後本県などで災害が発生した際に活かしていきたいと考えています。



補助率を決めるためのヒアリング (川村技師、右から2番目)



県出先機関への事務説明会での説明



上天草市での仮設ポンプ確認

# 読者プレゼント

本誌6～7ページで紹介した「雪のおはぎ＊風花」の冷凍おはぎ8個セットを3名様にプレゼント。

ご応募は、下のアンケート回答フォームから回答いただくか、応募はがきに記入してお送りください（はがき可）。本ページは山形県ホームページからも印刷できます。

アンケートの回答フォームはこちら



- ※当選者の発表は、発送をもって代えさせていただきます。
- ※ご応募によって得られたアンケートの情報は、個人情報を含まない形で誌面への公表等に使用させていただく場合があります。
- ※プレゼントの応募締切は、2026年5月31日です。

山形県ホームページから norari のバックナンバーをご覧ください。右記コードからアクセスしてください。



最上地域のめぐみを活かした

## 「雪のおはぎ＊風花」 冷凍おはぎ8個セット



※冷凍おはぎの容器は写真とは異なります。

## 地域活動情報をお寄せください。

85円切手をお貼りください

〒990-8570  
山形市松波2-8-1  
山形県農林水産部農村計画課  
**norari 事務局 行**

氏名

住所 〒

電話番号

### 読者プレゼント希望欄

プレゼント希望の場合は、「レ」を付けてください。  
応募締切は、2026年5月31日（消印有効）です。

### アンケートにご協力ください

- Q 1 本誌の内容はいかがですか？  
 おもしろい  普通  つまらない
- Q 2 皆さんの活動や産品で本誌に掲載してみたいものがありましたらご記入ください。
- Q 3 本誌に関するご意見をご記入ください。

## Nのらり親父のつぶやき



『健康管理』

私も世に言う高齢者となった。

そのため、健康には人一倍気を使い、栄養、運動、睡眠など十分に考えて生活している。

少し咳が出ると肺がんを疑いすぐ内科医へ、少し頭が痛いと思梗塞を疑いすぐ脳外科医へ、吹き出物のようなものが出ると皮膚がんを疑いすぐ皮膚科医へ。

万が一のことを考え、体の異変に細心の注意を払って生活しているが、先日腹の調子が悪くなり、少し吐き気がし、胃に痛みを感じた。「胃がんか?!」と慌てて病院へ行った。

診察が終わると医者から次のように言われた。

「神経性の胃炎でしょう。何かストレスありませんか？何か気になる事とか、心配事とかありませんか？」

発行 norari 編集委員会  
〒990-8570 山形市松波 2-8-1  
山形県 農林水産部 農村計画課  
「norari 事務局」 Tel 023-630-3077  
協力 山形県農村振興技術連盟  
山形県土地改良事業団体連合会

# 地区の未来を考える めいじ 明治地区(山形市)



「元氣な農村(むら)づくり総合支援事業」は、地域づくりを応援します！

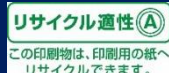
明治地区は山形市の北西部に位置し、山形盆地のほぼ中央を流れる須川に、白川(馬見ヶ崎川)と立谷川が合流する場所です。山形市山寺から西川町間沢を結ぶ「さくらんぼサイクリングロード」が地区内を通り、西に「月山」、「朝日連峰」、「葉山」、東に「蔵王」を一望しながらサイクリングを楽しむことができます。

令和7年2月に開催した地域づくり講演会をきっかけに立ち上げた「明治地区の未来を考える会」が発起人となり、地域住民が一堂に会して持続可能な地域づくりについて話し合う、ワークショップに取り組んでいます。1回目のワークショップでは、数班に分かれて現場を歩き、気づいたことを点検マップにまとめました。2回目のワークショップでは、明るく元気で住みやすい明治地区の実現に向け、前向きな提案を出し合います。この取組みでまとめた成果は、今後の明治地区の地域づくりに活かしていく予定です。

元氣な農村(むら)づくり総合支援事業は、地域が主体となって取り組む地域づくりを応援するものです。地域で実施する話合いや地域での活動を進めたいが、誰に相談したらよいかわからない。悩める市町村の担当者や地域の皆さん、そんな時は下記の窓口にお気軽に相談してください。



お問い合わせ先 村山総合支庁 農村計画課 TEL 023-621-8389 最上総合支庁 農村計画課 TEL 0233-29-1339  
置賜総合支庁 農村計画課 TEL 0238-26-6056 庄内総合支庁 農村計画課 TEL 0235-66-5549  
県庁農村計画課 農村づくり担当 TEL 023-630-2948



norari 2026年春号 発行/ norari 編集委員会 2026年3月27日発行 〒990-8570 山形市松波2-8-1 山形県農村計画課「norari 事務局」 TEL 023-630-3077